

水見ネット水見

度重なる集中豪雨に見舞われました

今年の夏は、局地的な集中豪雨による洪水や湛水被害が全国各地で頻発しました。一般的に豪雨といわれる一時間雨量三十ミリ以上を記録した日は、水見市でも七月八日、二十八日、八月十六日の三日間もありました。特に八月十六日には未明から夕方にかけて断続的な集中豪雨に見舞われ、午前一時十分までの一時間雨量は八月としては観測開始以来最大の五十五・五ミリを記録し、午前二時五十分までの三時間降雨量も過去最大の九十三・五ミリを記録しました。その後十二時と十五時の二弾にわたり一時間雨量三十ミリ以上を記録し、八月全体の降雨量としても、平年降雨量の一四三・九ミリ（気象庁調べ）を大きく上回り、三一五・五ミリ（十二町潟排水機場雨量計）を記録しました。上庄川の水位は、午後四時頃には避難判断水位に達するなど一時緊張が走りました。

このような集中豪雨の場合、十二町潟排水機場ではインターネットで刻々変化する雨雲の動きを観察しながら万尾川からの取水ゲート操作、仏生寺川上流の水門操作員との連携による潮止水門の開閉、これに連動した排水ポンプの運転

8月16日（土）の道路冠水状況



水見市大浦地内



水見市諏訪野地内

第9号
発行所
水見市土地改良区
〒935-0024
水見市窪938番地
☎91-0083

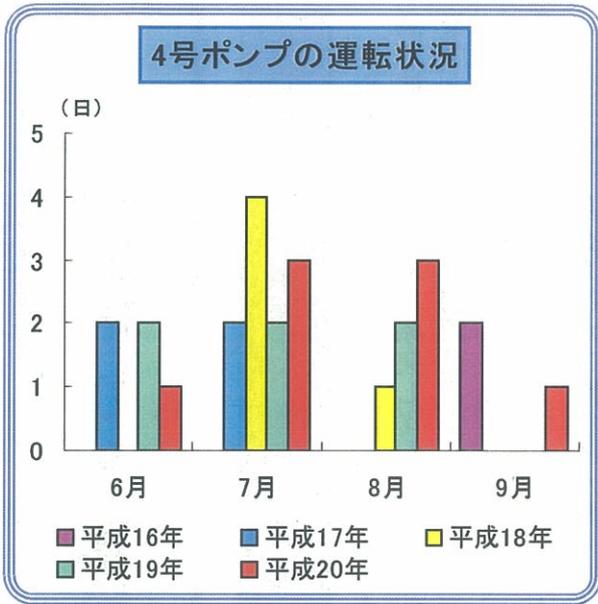


水見市（みどり）ネットは、土地改良区の愛称です。全国公募の中から平成十四年十月に選定されました。「水」は農業用水や地域用水等を、「土」は土地や農地・土壌を、「里」は農村空間や農家・非農家の生活空間の意味です。また「水見市」は、豊かな自然環境から美しい水やきれいな空気など清廉なイメージを表現するものです。

操作など二十四時間体制で排水管理をする重要な役割を担っています。通常の週休日等や夜間の管理業務には操作員一名を配置しますが、八月十六日には集中豪雨による河川水位の急上昇に備え、午前一時から職員を非常召集し警戒態勢を執りました。

十二町潟排水機場には四基の排水ポンプが設置されており、最大排水能力は毎秒三十四・四m³です。これは一秒間にドラム缶で約百七十二本分を排水する能力で、二十五mプールに満水の水なら十五秒ほどで空に出来るものです。河川の排水は、通常の雨であればコンピュータ管理の全自動運転により一号、二号、三号の三基のポンプで対応しますが、前述のような集中豪雨の場合は三基の排水能力では対応仕切れないので、手動運転に切替え四号ポンプを運転します。この四号ポンプを運転することは余りありませんが、本年度は例年に比べてその機会が多いうです。

十六日の午前一時には、今後の豪雨予測に備え万尾川及び仏生寺川副水路の水位を予め二十cm下げていましたが、降り始めると水位が上昇しはじめたので、排水ポンプ四基のフル稼働を続けましたが水位は一向に下がらず上昇し続け



ました。更に午前十一時頃からの第二弾の豪雨では、未明に降った豪雨のため水田や山林の保水能力が限界を超えていたこと等から各河川への出水が早まり、加えて、泉川から溢れ出た水が受益地域に流れ込んだこともあり、残念ながらポンプの排水能力をオーバーする結果となりました。十七日の午前八時頃から小康状態となりましたが、自然の驚異を感じると共にポンプ能力の限界を知らされた一日でした。

現在、突発的な豪雨に対しては、インターネットから雨雲情報等を収集しながら運転管理をしています。今後は、時系列的なマニュアルを早急に作成すると共に対応訓練を重ねるなど運転管理の技術向上に努めたいと思います。

平成十九年度決算監査の実施

平成十九年度の決算監査が、久保総括監事以下全員の出席の下、去る七月二十九日(火)午前九時三十分から第一回監事会に引き続き実施されました。監査には布子理事長及び國本常務理事も同席しました。

平成十九年度の決算監査として、一般会計及び十本の特別会計について業務運営の状況から実施事業の内容、会計経理の状況及び財産目録等について、諸帳簿の精査や担当者からの説明等が求められました。

その結果、平成十九年度の実施事業及び経理関係の事務は、定款や規約等の諸規定に従い適正に処理されていること。また、収支決算書及び平成二十年三月末の現金、預金、借入金金額は正確であったことの確認を頂きました。その他、前回の監査で指摘された総代会への出席率の向上対策や賦課金の滞納対策については、それぞれ具体的な対策を講じ目下取り組み中であり、その効果が上がるように最善の努力を続けること等の要望がありました。



概ね良好であるとの総評を頂きました

「県政バス教室」等の視察

「県政バス教室」の参加者十五名が、去る九月五日(金)に十二町瀧排水機場視察で来場されました。この「県政バス教室」は、県民の皆様に県内の各施設をバスで巡って頂き、県政に対する要望や意見をお聞きする趣旨で開催されており、当排水機場は毎年視察コースに組み込まれています。

午後一時十分から二階会議室で守田管理課長代理による十二町瀧の歴史や排水機場の建設経緯、施設設備の規模や能力等の概要説明の後、施設内を見学して頂きました。市外から参加された皆様に当施設に触れていただく良い機会になりました。



説明を受ける県政バス参加者たち
氷見市土地改良区2階会議室において

また九月二十五日(木)には、富山県新任技術職員視察研修として本年度の総合土木職採用職員十一名の訪問がありました。排水機場及び用水中央管理システム、更には現地に
出向き中央
幹線用水路
の中谷内調
整池を視察
されました。
この研修は、
農林水産部
関連事業等
の施設実態
を直接見る

ことで当該業務への理解を深めるものです。参加された新任職員には、氷見市農業の実態や国・県営かんがい排水事業との関わり、氷見市土地改良区の役割等について理解を深めて頂きました。



説明を受ける新任職員の方々
氷見市土地改良区2階会議室において

農業委員に坂本昭男氏が選任

土地改良区推薦の農業委員に宇波土地改良区理事長(氷見市土地改良区理事)の坂本昭男氏が選任されました。任期は平成二十年七月二十日から三年間です。

この土地改良区が推薦する農業委員は、農地流動化の調整や農地の利用集積等の構造政策の推進に向けた農業委員会の体制強化を図る観点から、平成十六年に農業委員会等に関する法律が一部改正され、前回の改選期から土地改良区の推薦枠が新設されたことによるものです。
耕作放棄地の増加と国営かんがい排水事業



の維持など課題山積ですが、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

農業用水を育む集い二〇〇八 in常願寺川の開催

「農業用水を育む集い二〇〇八in常願寺川」が、去る八月五日(火)午前十時から富山市大山文化会館(旧大山町)で開催されました。このイベントは、富山県や富山県土地改良事業団体連合会等が主催するもので、豊かな水の恵みを守り伝えていくために農業用水や水源林の役割や重要性等について、農業関係者は勿論のこと一般住民の方々にも広く知って頂くためのもです。氷見市土地改良区から布子理事長以下役員等二十名が参加しました。

大山文化会館には県内各地から六百余名が集まり、石井隆一知事や河合常則富山県土地改良事業団体連合会長の挨拶の後、五団体の富山県産業経済功労表彰や米原寛立山博物館長の基調講演、現地見学等がありました。



農業用水は単に田畑を潤すだけでなく、防火、消流雪、生態系保全、水辺の癒しなど地域用水機能を有し多くの恩恵をもたらしています。参加者された皆さんには、今後とも、この豊かな水の恵みを守り伝えるため、水源林により涵養された農業用水についての理解を深めると共に守り伝える活動をお願いいたします。

農業基盤の充実で農村の発展を

去る九月二十八日(日)午前十一時から、富山県土地改良事業団体連合会(会長 河合常則参議院議員)の設立五十周年の記念式典が富山市の名鉄トヤマホテルで開催され、布子理事長、亀田理事長職務代理、國本常務理事が出席しました。

富山県土地改良事業団体連合会は、昭和三十三年の土地改良法の改正に伴い土地改良事業を行う土地改良区や市町村等の共同組織として設置が法制化され、昭和三十三年十二月十七日付け設立発起人代表片折十次郎(元副会長)名で申請し、同月二十日付けで農林大臣から認可を受け発足したものです。

記念式典には県内各土地改良区の関係者ら二百三十余名の出席があり、河合会長の「農業農村整備事業の必要性、重要性は益々増大する。明日の農業を支えるため一丸で取り組もう」との挨拶の後、石井知事や綿貫衆議院議員など県選出の国会議員から祝辞があり、五十周年の節目を祝いました。

本年度の導水量は三、八〇九千³m

国営五位ダムの水利使用は、去る九月五日で終了しました。本年度の導水量は三、八〇九千³mで、前年度に比べ二〇八千³mの減（△五・二％）となりました。

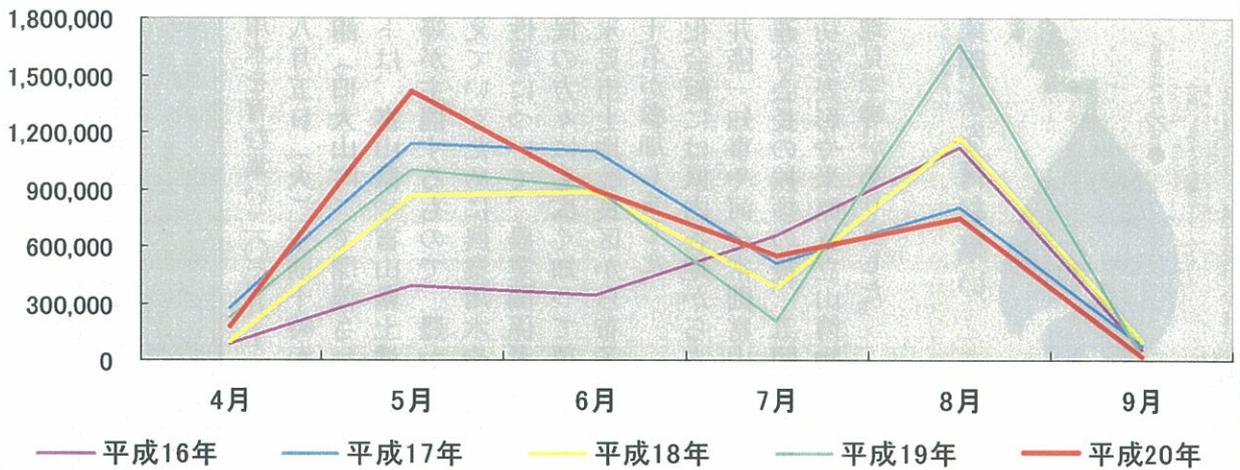
これは、例年ならば使用量が跳ね上がる八月の導水量がここ五年間で最低だったことによるもので、七月下旬からの断続的に降り続いた雨による影響が大きかったと言えます。しかし、六月末時点での導水量は、降雪や年明けからの降雨量が少なかったこと等から、過去最高であった前年度実績を十七・二ポイントも上回る状況にあり、本年度は水不足が大変心配されています。七月後半からの降雨はかんがい用水にはプラスになりましたが、一部に湛水被害をもたらすこととなり、九月に入っても前半は雨が降り続いたため田がぬかるみ、稲刈り作業等への影響も大きかったようです。

自然を相手とする「かんがい用水」の需要予測は大変難しいところですが、引き続き、天気予報に基づききめ細かな配水調整や五位ダムとの綿密な連携と早い段階からの対策等に万全を期したいと思えます。組合員の皆様には無駄のない有効な水使用にご協力をお願い致します。

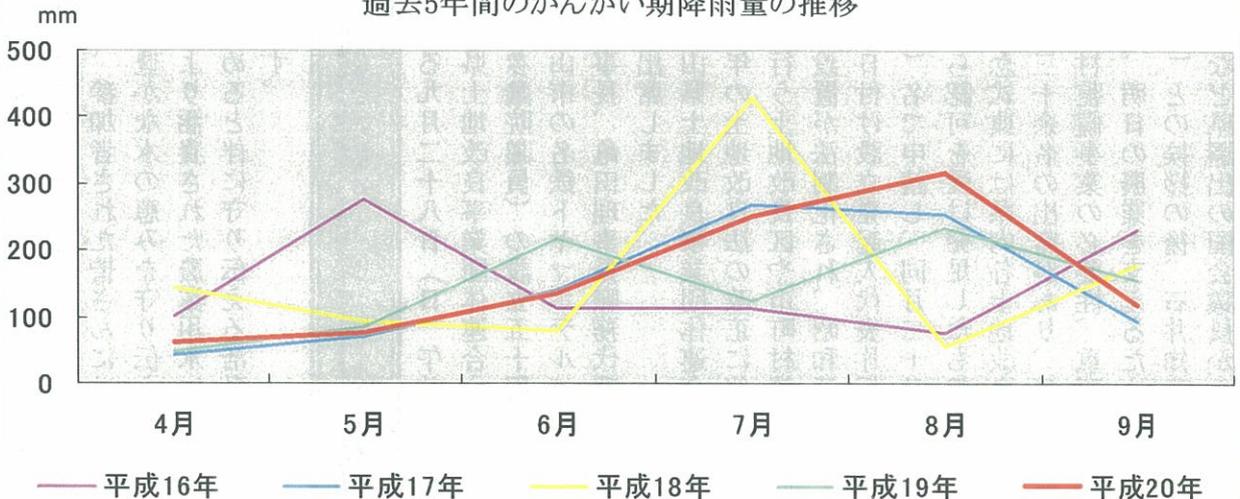
この後、各種データの分析と整理や各施設の点検調整及び必要な修繕などを行い、来年度の安定した配水に努めてまいります。



過去5年間の導水量の推移



過去5年間のかんがい期降雨量の推移



※ 降雨量は十二町潟排水機場雨量計による